

10月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和7年10月末現在〕

令和7年11月14日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、「景況」、「収益状況」は悪化した、「売上高」は変化がなかった。

業種別でみると、「景況」の前年同月比は製造業、非製造業ともに悪化し、前月比は製造業が改善し、非製造業は悪化がなかった。「売上高」の前年同月比は製造業は悪化した、非製造業は改善した。前月比は製造業、非製造業ともに改善した。「収益状況」の前年同月比は製造業、非製造業ともに悪化し、前月比も製造業、非製造業ともに改善した。

経営状況が厳しいとする意見が多くみられた。

景況DI

全体では、前月比 2.0ポイント改善の▲28.6ポイント、製造業は、前月比 4.0ポイント改善の▲28.0ポイント、非製造業は、前月比 変化なしの▲29.2ポイントとなった。

売上高DI

全体では、前月比 4.1ポイント改善の0.0ポイント、製造業は、4.0ポイント改善の▲4.0ポイント、非製造業は、前月比 4.2ポイント改善の4.2ポイントとなった。

収益状況DI

全体では、4.1ポイント改善の▲28.6ポイント、製造業は、4.0ポイント改善の▲28.0ポイント、非製造業は、4.1ポイント改善の▲29.2ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	学校給食パン	本県最低賃金が12日より引き上げられたが、学校給食の契約は年度契約であるため、年度内の加工賃を引き上げるのは難しく、価格転嫁できないため内部留保等で対応するしかない。組合員はきわめて厳しい状況である。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県における9月の清酒課税移出数量は、前年同月比0.2%微増となった。大吟醸と普通酒は好調であったが、純米酒が減少した。 ○県内当業界について 主食米（銘柄米）の高騰による農家の酒米耕作離れが深刻な状況である。春に約束した耕作面積で栽培せず、主食米に転作する農家もあり、必要な酒米が確保できない状況となっており、農家と商人との約束の概念の違いを改めて感じさせられる状況事案となった。 吟醸酒や純米酒の特定名称酒は酒米で作るため、酒米が確保できないことから生産計画にも影響が出ている。特定名称酒は利益率も高いため、今後の収益にも影響がでることを危惧している。米全体の価格が下がらない限りはこの問題は解消されるものではなく、スーパーで5キロ税込み4,500円から5,000円の米価格は異常であると言わざるを得ない。
		納豆	一部大手メーカーの値上げにより、中小企業も値上げをしやすい状況になったが、最低賃金の上昇分を価格転嫁できるかどうかは難しい部分もあり、値上げにより消費者の商品購入数の減少、小売店の取扱量の減少が懸念される。人手不足により工場稼働率が低下している。
		菓子	イベント等の開催時には賑わいを見せるが、日々の営業では店内に賑わいがいない状況である。
		外衣シャツ	縫製業の経営環境は良い状況ではない。
	木材・木材製品	製材	・国産材製品の荷動き、価格ともに横ばいで推移した。 ・外材については入荷量が少なく、価格は高値安定で推移した。 ・原木価格については、スギが高値安定で推移し、ヒノキは値下がりの傾向を見せている。
		県北地区プレカット	月間加工坪数目標（1,000坪）は95%達成であった。 11月の加工予定は、初旬に集中し、17棟を予定している。 木材費は、高値安定を維持している。
	紙・紙加工品	段ボール	10月の大手段ボール会社の業績は良い会社と悪い会社で二極化している。 中小企業は前年並みか昨年より若干生産量が落ちている状態である。 一部の大手製紙メーカーが材料の値上げを発表しているため、今後中小企業に対して値上げをしてくることが予想される。今後、毎年値上げの覚悟をせざるを得ない状況である。
	印刷	総合印刷	当組合の組合員は、中小企業の中でも特に従業員数も少ない小規模経営者がほとんどであるため補助金を申請して大型機械導入をする体力もないため、厳しい状況である。
		コンクリート製品	組合の以下製品の単価を11月からそれぞれ10%上昇する。 長尺U字溝　KUS（歩道用）・KUR（車道用）、同蓋　ISL（歩道用）・IRL（車道用）
		陶磁器	秋の観光シーズンにより市内は賑わいを見せており、イベント出店の機会も増えたことから売上が増加している。
製 造 業	鉄鋼・金属	鉄鋼	自動車部品や建築資材・機械部品などの受注量は増加傾向であり、売上も対前年比で微増であった。 金属材料や貴金属が高値安定を維持している。 工業薬品も値上がりしており、灯油やガソリンを含めた製油関連製品の高値安定となっている。
	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上状況は増加（対前年同月比）6社、減少（対前年同月比）1社となった。全体増減率は142%となった。 団地全体の売上高は、主要取引先からの受注が増加したことから6ヶ月連続で前年同月比を上回っている。団地全体の従業員は、前年末に派遣社員数が減少したことから前年同月比では減少しているものの、売上が増加していることから前月比では2ヶ月連続で増加している。
		重電	最低賃金の引上げ額があまりに大きすぎると感じている。町工場は価格の見直しに時間がかかる。国で最低賃金を決めないで個々の会社で決められるようにしてほしい。

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	輸送用機器	県北地区自動車部品	全体的に売上が減少傾向にあり、先行きを見通すことが難しい状況となっている。
非 製 造 業	卸売業	生鮮魚介	精算所の取扱高が前年同月比8.5%増加した。 サンマの豊漁が続いたため、多少前年度よりも好調であったが、全体的な荷動きは厳しい状況が続いている。 今後も秋鮭等の不漁が続いていることや年末商材等の単価の上昇が予想されることから先行きを見通すことは難しい。
		米麦	令和7年度産の米の収穫量は前年より増加することになり、契約や販売の進捗状況については「令和の米騒動」で極端に早かった前年同期に比べて遅れており、厳しい状況となっている。
		袋セメント	袋セメントの10月度出荷数量は24.5千袋、前年同月比90.8%の実績となった。 工法の変化が進む中で、袋セメントに代わりプレミックス商品の利用や地盤改良剤の使用が一般化し恒常的な減少の要因となっていること、職人も含めた小口先が多数ホームセンターの私製袋に流れていることが需要減少の大きな要因となっている。
	小売業	鹿行地区共同店舗	売上高は88.79%（前年同月比）と減少した。 来客数は95.76%（前年同月比）と減少した。
		県南地区共同店舗	ショッピングセンター全体として10月の売上高（前年同月比）は100.78%と微増となった。
		燃料	10月は天候に恵まれず晴れの日が少なかったため、前年同月比で売上が全体的に下回る実績となった。 国の支援策により価格は抑えられているものの10月27日時点の茨城県のレギュラーガソリンの平均価格は170.3円と170円を超えており、前年同月より0.5円安いが以前として高値を維持している。 ガソリン税の「暫定税率」（正式には「特例税率」）を年内に廃止することが合意されたが、高市総理も廃止の意向であり、11月13日より補助をしていき段階的に値段を下げる方向性となった。 暫定税率廃止については買い控えや給油客の殺到等のガソリンスタンド店頭でのトラブルや収入が減る分の経営上の問題等が懸念される。また、軽油に係る暫定税率分は地方税であり、茨城県の収入にも大きく影響があり、当組合運営にも支障がでてくる大きな問題であり、国の動向に注視していく必要がある。
		スポーツ用品	地元大手企業の工場縮小により従業員が全国の工場や事業所に転属されたことに伴い中学生や小学生が減少したことにより、売上は厳しい状況であるが、市外に販路を拡大したことにより、全体の売上は不変で推移している。
		中古自動車	10月の販売台数は前年同月比で3.5%増加し、売上高は1.5%減、販売価格も4.8%減とほぼ同水準の実績であった。新車の販売が低調な中、中古市場も同様の影響を変わらず受けている状況である。
		野菜・果実	10月の野菜果実の取扱高（前年比）は97.8%と減少となった。過去5年間の平均と比較すると102.3%で増加となった。茨城県で主力のサツマイモや白菜が増え転送業を営む組合員をはじめとして、県外の事業者の買い入れが増える傾向にあった。
		筑西	米の物価高騰対策に苦慮している

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非製造業	サービス業	自動車整備	組合員の事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）は普通車は微減、軽自動車は増加となった。（前年同月比）
		旅館、ホテル	【笠間・県央エリア】 笠間稲荷神社の「菊まつり」など季節イベントが集客に貢献している。地域全体として観光需要は堅調で賑わいを見せている。最低賃金の上昇により、施設側は売上・利益の更なる向上が求められており、水戸市の施設は安定した稼働状況で、観光・ビジネスの両面で需要がある。地域イベントや工事需要もあり、観光・ビジネス共に伸びているが、税金や人件費の負担が課題となっている。 【奥久慈・北茨城エリア】 交通費高騰の影響により団体旅行（特にバスツアー）の減少が顕著となっている。地域柄、団体を受け入れられる飲食店が少なく、日帰りの団体利用は宿泊施設に集中している。韓国からのゴルフ客が増加傾向にあるが、宿泊にはつながっておらず、個人予約同線の整備が課題となっている。袋田温泉では団体から個人主体の営業に転換し、関東圏からの個人旅行者がメインターゲットとなっている。地域イベント（奥久慈大子まつり、りんご祭りなど）が観光需要を支えている。インバウンドは3%程度で台湾・香港・韓国など東アジア市場が中心となっている。 【ひたちなか・日立エリア】 近隣ホテルの倒産もあり、競争環境は厳しく、業界全体の景況は悪化傾向にある。ひたち海浜公園のコキア観光期でも、週末の観光客利用は前年比で弱く、稼働率が伸び悩んでいる。個人旅行者には一定の需要があるが、団体旅行者への需要が少ない。行楽シーズンにもかかわらず、期待ほどの集客が得られていない施設もある。 【つくば・県南エリア】 インバウンドは一時的に増加したが、現在は落ち着いている。団体研修などの利用は規模縮小がみられ、繁閑差が拡大している。価格差が広がっており、収益管理が課題となっている。一部施設では安定した稼働を期待しているが、団体利用者減少の影響を受けている。
		ビル管理	売上高（前年比）は微増となった。 労務費や資機材消耗品等の価格上昇による影響を大きく受けており、利益が増えていない。
	建設業	総合	公共事業（県・市）の予算減少により発注予定件数、金額が減少しており業績の見通しが非常に厳しくなっている。
		県央地区管工事	組合員から人手不足の声が上がるようになってきており、来年の4月以降、銅を含めた金属関係材料の更なる値上げ通告が出されている。
	運輸業	軽貨物自動車	10月の組合員数は、1名増加（前年同月比）の97名、車両台数は、1台増加（前年同月比）の125台となった。又運送売上高については、前年同月比109.6%の増加となった。 全国赤帽自動車運送協同組合連合会の10月の組合員数は8名減（前年同月比）の5,794名、車両台数は6台減（前年同月比）の6,937台となっている。
		一般貨物自動車	主要顧客の発送物量はほぼ前年並みとなっている。 人件費は上がっているが、従業員の確保が厳しい状況にあり、燃料価格も高く、トラック価格や修理代も高くなっており、収益も厳しい状況が続いている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	清酒	昨年からの急激な米価格の高騰により加工業者は苦境に陥っているため、行政には米価の歴史的 高騰により経営が圧迫されている酒造への原料米購入資金の補助金の検討をお願いしたい。
電気機器	重電	業種別特定最低賃金を廃止してほしい
小売業	燃料	・揮発油に課税している二重課税の廃止 ・燃料油補助に対する消費者に対する十分な説明、補助事業の今後の見通しの事業者向けの説明 ・物価上昇、円安への対策 ・暫定税率分の軽油に係る地方税への適切な対応
サービス業	旅館・ホテル	・宿泊施設の固定資産税への配慮 ・経年劣化施設への助成・補助制度の充実 ・中小企業の納税負担軽減 ・インバウンド対応に向けた動線整備支援

月次景況調査 10月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	10月	9月	前月比	10月	9月	前月比	10月	9月	前月比
景 況	▲ 28.6	▲ 30.6	2.0	▲ 28.0	▲ 32.0	4.0	▲ 29.2	▲ 29.2	0.0
売 上 高	0.0	▲ 4.1	4.1	▲ 4.0	▲ 8.0	4.0	4.2	0.0	4.2
収 益 状 況	▲ 28.6	▲ 32.7	4.1	▲ 28.0	▲ 32.0	4.0	▲ 29.2	▲ 33.3	4.1
販 売 価 格	14.3	22.4	▲ 8.2	4.0	8.0	▲ 4.0	25.0	37.5	▲ 12.5
取 引 条 件	▲ 10.2	▲ 16.3	6.1	▲ 12.0	▲ 16.0	4.0	▲ 8.3	▲ 16.7	8.3

中小企業月次景況調査(令和7年10月)DI値(前年同月比)

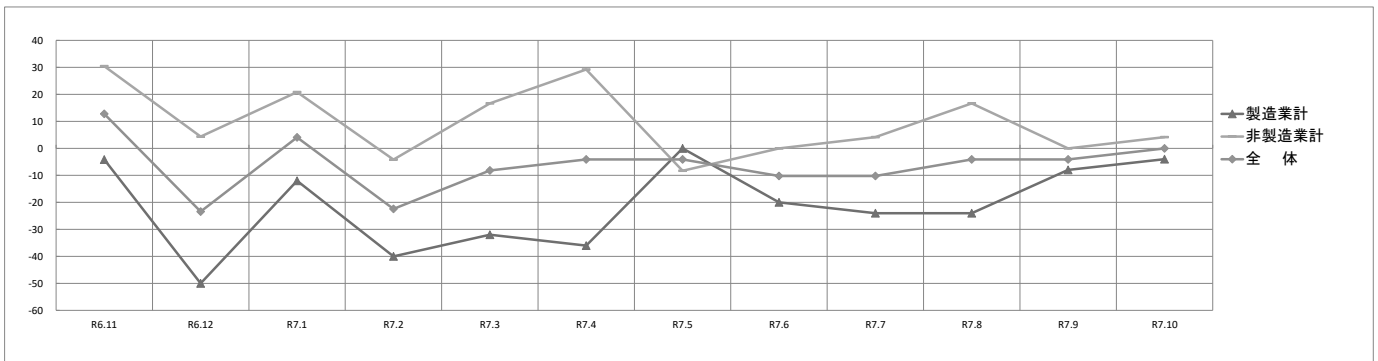
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)														
				増加	不変			減少	業界数			増加	不変			減少	業界数			上昇	不変			悪化	業界数			好転	不変			悪化	業界数	好転	不変	悪化	業界数	好転	不変	悪化	業界数	増加	不変	減少	業界数	好転
製造業	食料品	△ 12.5	2	3	3	8	△ 25.0	0	6	2	8	62.5	5	3	0	8	0.0	0	8	0	8	△ 37.5	0	5	3	8	△ 25.0	0	6	2	8	△ 25.0	0	6	2	8	△ 37.5	0	5	3	8					
	繊維工業	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2
	木材・木製品	50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2					
	紙・紙加工品	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	窯業・土石製品	△ 25.0	1	1	2	4	25.0	1	3	0	4	0.0	0	4	0	4	25.0	1	3	0	4	△ 25.0	1	1	2	4	0.0	0	4	0	4	△ 25.0	0	3	1	4	△ 25.0	0	3	1	4	0.0	1	2	1	4
	鉄鋼・金属	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1					
	一般機器	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2
	輸送機器	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 66.7	0	1	2	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 66.7	0	1	2	3
	製造業計	△ 4.0	7	10	8	25	△ 16.0	1	19	5	25	4.0	5	16	4	25	△ 12.0	1	20	4	25	△ 28.0	2	14	9	25	△ 20.0	0	20	5	25	△ 20.0	1	18	6	25	△ 28.0	0	18	7	25	△ 28.0	1	16	8	25
非製造業	卸 売 業	△ 33.3	1	0	2	3	33.3	1	2	0	3	66.7	2	1	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 100.0	0	0	3	3	△ 66.7	0	1	2	3	<div></div>				0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	3	
	小 売 業 (商店街含む)	9.1	2	8	1	11	0.0	0	11	0	11	9.1	2	8	1	11	0.0	1	9	1	11	△ 18.2	1	7	3	11	△ 18.2	0	9	2	11					0.0	0	11	0	11	△ 27.3	0	8	3	11	
	サービス業	33.3	1	2	0	3	<div></div>				66.7	2	1	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3					0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3		
	建 設 業	△ 20.0	0	4	1	5					0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 20.0					0	4	1	5	△ 20.0	0	4	1	5		
	運 輸 業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	0.0	0	2	0	2		
	非製造業計	4.2	5	15	4	24					7.1	1	13	0	14	25.0	7	16	1	24	△ 8.3	1	20	3	24	△ 29.2	1	15	8	24	△ 20.8					0	19	5	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 29.2	0
全 体		0.0	12	25	12	49	△ 7.7	2	32	5	39	14.3	12	32	5	49	△ 10.2	2	40	7	49	△ 28.6	3	29	17	49	△ 20.4	0	39	10	49	△ 20.0	1	18	6	25	△ 20.4	0	39	10	49	△ 28.6	1	31	15	49

D I 値推移表 (R6.10月 ~ R7.9月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10
食料品製造業	14.3	▲ 42.9	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 12.5
製造業(食料品製造業以外)	▲ 11.8	▲ 52.9	▲ 17.6	▲ 47.1	▲ 35.3	▲ 35.2	5.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 5.8	0.0
製造業計	▲ 4.2	▲ 50.0	▲ 12.0	▲ 40.0	▲ 32.0	▲ 36.0	0.0	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 8.0	▲ 4.0
卸売業	33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	66.7	33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	54.5	9.1	45.5	9.1	9.1	54.5	▲ 27.3	▲ 9.1	9.1	9.1	0.0	9.1
サービス業	50.0	▲ 50.0	33.3	33.3	66.7	100.0	66.7	66.7	33.3	66.7	▲ 33.3	33.3
建設業	0.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	0.0	0.0	▲ 50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0
非製造業計	30.4	4.3	20.8	▲ 4.2	16.7	29.2	▲ 8.3	0.0	4.2	16.7	0.0	4.2
全体	12.8	▲ 23.4	4.1	▲ 22.4	▲ 8.2	▲ 4.1	▲ 4.1	▲ 10.2	▲ 10.2	▲ 4.1	▲ 4.1	0.0

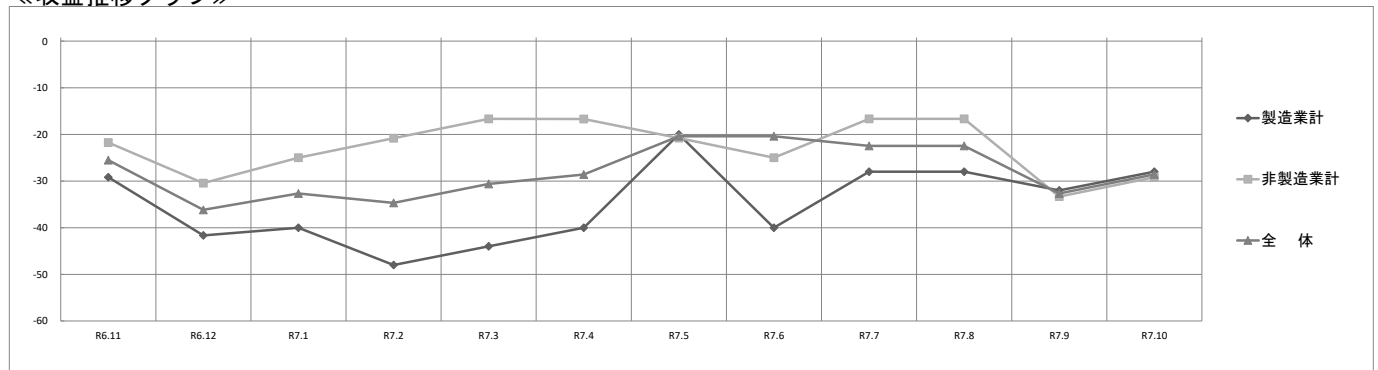
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10
食料品製造業	▲ 14.3	▲ 42.9	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5
製造業(食料品製造業以外)	▲ 35.3	▲ 41.2	▲ 41.2	▲ 47.1	▲ 47.1	▲ 29.4	▲ 11.7	▲ 41.1	▲ 29.4	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5
製造業計	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 40.0	▲ 48.0	▲ 44.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 32.0	▲ 28.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	#####
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 9.1	9.1	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 18.2
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	0.0	▲ 66.7	▲ 33.3
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 21.7	▲ 30.4	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 20.8	▲ 25.0	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 29.2
全体	▲ 25.5	▲ 36.2	▲ 32.7	▲ 34.7	▲ 30.6	▲ 28.6	▲ 20.4	▲ 20.4	▲ 22.4	▲ 22.4	▲ 32.7	▲ 28.6

《収益推移グラフ》

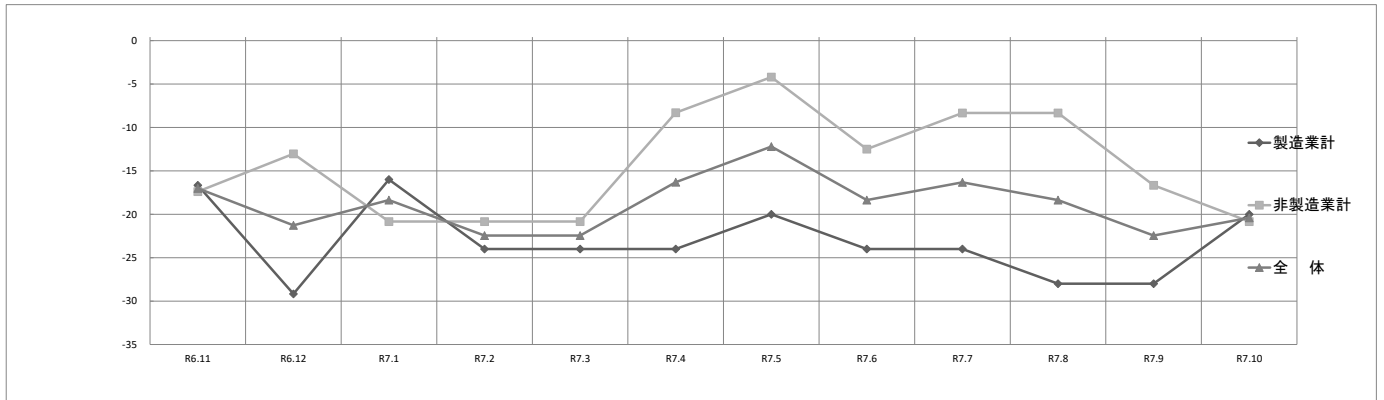


D I 値推移表 (R6.10月 ~ R7.9月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10
食料品製造業	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 12.5	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 25.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 11.8	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 17.6	▲ 11.7	▲ 11.7	▲ 17.6	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6
製造業計	▲ 16.7	▲ 29.2	▲ 16.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 20.0	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 28.0	▲ 20.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	▲ 18.2
サービス業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	0.0	0.0	0.0	▲ 20.0	0.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 17.4	▲ 13.0	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 8.3	▲ 4.2	▲ 12.5	▲ 8.3	▲ 8.3	▲ 16.7	▲ 20.8
全体	▲ 17.0	▲ 21.3	▲ 18.4	▲ 22.4	▲ 22.4	▲ 16.3	▲ 12.2	▲ 18.4	▲ 16.3	▲ 18.4	▲ 22.4	▲ 20.4

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10
食料品製造業	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 37.5	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 37.5	▲ 37.5
製造業(食料品製造業以外)	▲ 23.5	▲ 35.3	▲ 29.4	▲ 35.3	▲ 35.3	▲ 29.4	▲ 5.8	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 29.4	▲ 29.4	▲ 23.5
製造業計	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 32.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 36.0	▲ 16.0	▲ 32.0	▲ 32.0	▲ 36.0	▲ 32.0	▲ 28.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7
小売業(商店街含む)	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 27.3	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 9.1	▲ 9.1	0.0	▲ 18.2	▲ 36.4	▲ 27.3
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3	0.0	▲ 33.3	▲ 33.3
建設業	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 20.0
運輸業	▲ 50.0	0.0	0.0	▲ 50.0	0.0	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 30.4	▲ 30.4	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 20.4	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 29.2	▲ 29.2	▲ 29.2
全体	▲ 27.7	▲ 31.9	▲ 28.6	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 28.6	▲ 32.7	▲ 30.6	▲ 28.6

《景況推移グラフ》

